



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3465号 2017.1.17 発行

晴れやかな表情 大人への門出 港北区で障害者182人が成人祝うつどい



東京新聞 2017年1月16日
壇上で目標を語る新成人代表の男性=港北区で

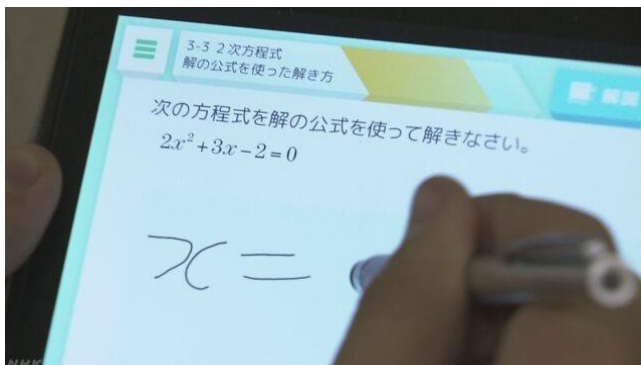
横浜市に住む障害者のための成人式「障害者の成人を祝うつどい」が十五日、港北区の障害者スポーツ文化センター「横浜ラポール」で開かれた。華やかな振り袖や真新しいスーツに身を包んだ男女百八十二人が出席。晴れやかな表情で、家族らと一緒に大人への門出を祝った。

障害などの理由で市主催の成人式には参加しにくいという新成人のため、障害者の親らで作る「市心身障害児者を守る会連盟」などが毎年開き、今年で三十四回目。

新成人一人一人の名前を読み上げた後、代表の男女二人が登壇した。緊張した様子を見せながらも「誰にでもすごく親切で頼もしい大人になりたい」と、しっかりとした口調で目標を述べた。最後は全員で記念撮影した。共催する市の林文子市長は「障害の有無にかかわらず安心して暮らせる町を目指しているので、皆さんは安心してやりたいことを精いっぱいやってほしい」と祝辞を述べた。

一昨年春から清掃会社で働いている金沢区の根本ちひろさん（20）は「しっかり仕事を頑張り、立派な大人になりたい」と抱負を語り、笑顔を見せた。（加藤益丈）

AI先生登場！ 教育はどう変わる？



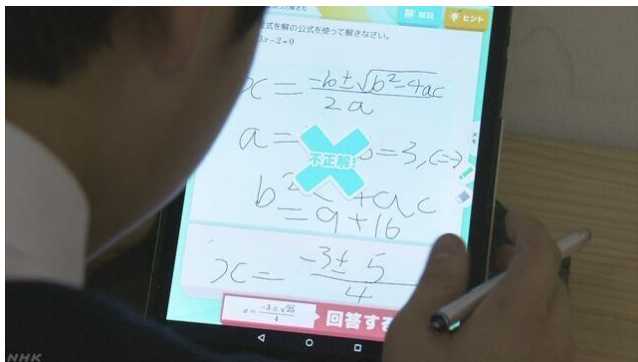
NHK ニュース 2017年1月13日

最近よく耳にするAI=人工知能。囲碁や将棋でプロ棋士をやぶったり、医療の分野に進出したり、はたまた恋愛の相談に乗ったりと活躍の分野をどんどん広げています。その波はついに教育にも…。なんと“AI先生”の登場です。生徒の評判は？人間の先生はどうなるのでしょうか？（報道局社会部・松井裕子）

登場！ AI先生 その力とは？

AI先生がいるのは東京・世田谷区にある学習塾です。中に入ると、普通の塾とは雰囲気は全く違います。生徒たちが真剣に向き合っているのは人間の先生ではなくてタブレット端末。教室には人間の先生もいますが、指導はほとんどしません。この端末こそ、AIが搭載されたいわばAI先生です。生徒1人ひとりの習熟度に合わせて徹底した「個別指導」を行っています。その評判を聞くと、

ある生徒は「AI先生のほうが自分の学習状況をよくわかってくれる」と話しました。そのすごさはどこにあるのか。中学1年の男子生徒を例に具体的に見ていきます。この生徒は数学でX(エックス)の解を求める二次方程式の問題に取り組んでいましたが、計算途中の式を答えとしたので不正解となりました。



するとAI先生は、生徒にどこでつまづいたのか理解させるために別の問題を瞬時に選んで出します。生徒はどこで誤ったか気づき、正しい答えの出し方にたどり着くことができました。AI先生は中学校の数学だけでおよそ1万問のレパートリーを持っています。生徒の間違える傾向や解答までの時間などを分析し、各生徒に適した問題を出すことで効率的な学習を可能にしているということです。実際、取材に行った日も、中学1年生が3年生の問題に取り組んでいました。



なぜAI先生？ 誕生の裏に…

実はこの塾、AI教材を開発している会社のオフィスの一角にあります。社長の神野元基さんは、以前は一般的な塾を経営していましたが、集団指導では子どもの能力を最大限に伸ばせないと感じていました。最も効率的な学習方法は何かと模索した結果、AI先生にたどり着いたといいます。

AI先生で講師の仕事も激変

AI先生の登場によって塾の中で講師の役割が大きく変わっていました。以前、数学を教えていた男性講師は、いまは手元のパソコンにAI先生からリアルタイムで送られてくる生徒たちの状況をチェックするのが主な仕事になっていました。

画面には、生徒の解答状況に加え「手が止まっている」といった指摘や、集中している度合いがグラフで表示されます。男性講師は「集中力が下がっている場合は近くに行って声をかけて、リフレッシュさせてあげたりします。勉強は教えないので役割はぜんぜん違いますね」と語っていました。

現在、AI先生は数学を教えることしかできませんが、神野さんは、ほかの教科にも広げながら、ゆくゆくは、公立の小学校、中学校にもアプローチしたいと話していました。

AI先生 どこまで普及？

このAI先生、すでにほかの塾でも



導入が進んでいますが、利用している生徒はまだ500人程度です。ただ、AIの進歩の早さを考えると、今後、教育分野にも急速に普及することは避けられないといいます。そうなるに気になるのは人間の先生の役割ですが、AI教材開発会社の神野さんは「今のAI先生は受験対策など知識を習得させる力は優れているが、生徒たちの意欲を喚起したり、みずから思考する力や周りの人と意見を交わしながら協力する力を育てたりすることは難しい」と指摘しています。

どうする？ 人間の先生模索始まる

そうならば、AI先生ができないことをどう指導していくのかが、人間の先生の腕の見せどころになりそうです。その模索も始まっています。去年秋に都内の中学校で行われた理科の授業。東京学芸大学の研究チームが6台のカメラを設置して撮影を行っていました。AI時代に先生が何をどう教えていくべきか探るための研究です。

チームの鎌田正裕教授は「知識だけ与えておけばいいという時代じゃなくなった。子どもたちに授業の中でどのようなスキルが身につくか、それを証拠としてビデオで撮影しようというのが目的です」と話していました。



研究では、教員にふだんどおりの授業を行ってもらいます。理科教員は、プラスチックの種類を実験を通して特定するという課題を与えました。子どもたちに具体的な実験方法はあえて指示しません。すると子どもたちは、どんな実験方法が適切か、自分たちで考えて話し合い、相談しながらひとつにまとめ上げていきました。ここで研究チームが観察していたのは、教科の知識の習得以外にどんな力が身についているか。例えば、生徒が主体的に考える力やほかの生徒と協力する力を引き出せているかどうかでした。



生徒からは、「知識もついたと思うけど、推理する力もついたかも」とか、「友達と意見を交わすと自分だけでなく人のことを考えることができるようになるから好きです」といった声が聞かれました。さらに研究チームは、後日、授業を行った教員も交えて授業の動画を分析しました。鎌田教授は「実験方法を考えさせるというやり方は子どもたちに先を見通す力を育成させている」などと述べて活発な意見交換が行われた今回のような授業がAI時代に求められると伝えました。



理科の授業を行った高田太樹教諭は「子どもたちのために教員がやるべきことと、AIに任せられるところがあると思う。子どもたちにどんな力をつけさせるべきか常に考えていかないといけない。AIに負けたくないという気持ちももちろんありますね」と話していました。**子どもたちのために AIと人間先生の共存**

AI時代を迎え、ほかの分野同様、先生の役割が変わっていくのは避けられないことだと思います。教育分野への導入には、脅威を感じる人や抵抗感を持つ人もいるかもしれませんが、生徒にとって必ずしも悪いことばかりではないかもしれません。東京学芸大学が授業の中で注目していた力は、文部科学省や国際的な学力テストを行うOECDもこれからの時代を生きる子どもたちに必要な力だとしています。しかし、こうした授業を行うには十分な時間が必要なうえ、教員にも高い能力が求められます。そのためにもAIが得意とするところはAIに任せることで、人間の先生が本当にやるべき教育に力を注ぐことができるという考え方もあります。いま学校の先生は、学力向上だけでなくいじめや不登校などさまざまな問題に直面していて、多忙で時間がないと言われていています。AI先生をうまく活用して時間を生み出し、よりきめ細やかな教育を行うことも考えられます。いま以上にAIが進出する未来を生きるのは子どもたちですから、その子どもたちの力を最大限伸ばせるよう、AIと人間の共存の在り方を探っていく必要があると思います。



駅に職業紹介コーナー 京阪寝屋川市駅

大阪日日新聞 2017年1月16日

大阪労働局は、寝屋川市と雇用対策協定を締結し、京阪電鉄寝屋川市駅で職業紹介コーナーを開設した。駅高架下の市の出張所と一体的に運営し、効果的な就労支援につなげるのが狙い。



オープニングセレモニーを開いた関係者ら
職業紹介コーナーは市の要望を受けて10日に開設。利用しやすい立地に設けて市民の利便性向上を図った。

駅には市の業務を行う「ねやがわシティ・ステーション」があり、市の就労支援窓口とハローワークの職業紹介窓口を併設。市と国が連携して取り組んでいく構えだ。こうした一体型の施設は、政令市以外の市町村では府内初の設置という。

開設に先立ち、大阪労働局と寝屋川市は12月に雇用対策協定を締結。今回は施設前でオープニングセレモニーを開き、苧谷秀信局長と北川法夫市長らが出席して門出を祝った。苧谷局長は「気軽に仕事探しをしてもらえるようになった。ぜひ多くの方に利用してもらえれば」と呼び掛けていた。

誠実に生きた時間を見て ドキュメンタリー映画「人生フルーツ」 監督 伏原健之さん プロデューサー 阿武野勝彦さん 大阪日日新聞 2017年1月15日
みずみずしい老夫婦「誠実に生きるという人生がある...」と話す伏原健之監督(左)と阿武野勝彦プロデューサー=大阪・十三の第七藝術劇場



建築家の夫と専業主婦の老夫婦の晩年の時間を記録したドキュメンタリー映画「人生フルーツ」(東海テレビ製作・配給)が大阪・十三の第七藝術劇場で上映されている。「みずみずしい老夫婦が誠

実に生きた時間を見てほしい」という伏原健之監督と阿武野勝彦プロデューサーに製作の裏話などを聞いた。

■90歳と87歳の夫婦

「人生フルーツ」の一場面＝(C)東海テレビ放送

－東海テレビ製作の劇場映画第10弾になる。

伏原 僕は「神宮希林 わたしの神様」に次いで2本目の映画になる。今回は90歳の元建築家の津端修一さんと87歳の奥さんの英子さんを撮った。2人は知る人ぞ知る夫婦で、愛知県春日井市の高蔵寺ニュータウンの一隅に住んでおり、みずみずしい姿を約2年間追いかけた。修一さんは東大卒の建築家で、1955年に日本公団住宅に入社し、多くの宅地造成に誠実に携わっているが、60年代の高蔵寺ニュータウン計画で、構想したものと違うものになったことから仕事から遠ざかった。



－その高蔵寺ニュータウンに自ら住むようになった。

伏原 高度経済成長期で、スローライフを提唱した修一さんにとってニュータウンは理想にほど遠い無機質な大規模団地になった。それで75年に自ら手がけたタウンの土地を買い、家を建てた。それは雑木林のある家で、亡くなるまで50年暮らした。2014年1月に修一さんに初めて電話したが、「テレビの取材はお断り」と言われた。それからは粘って何とか会える事になった。

－プロデューサーはどう考えたのか。

阿武野 取材が難しそうでも乗り気じゃなかったが、修一さんがニュータウンの設計者で、妻は料理上手でとてもいい人。何よりも伏原君が「修一さんが亡くなった父親の姿に重なる」と取材を諦めなかったのがゴーサインを出した。ドキュメンタリーは他者を題材にしながらか自分の姿を表現するという傾向もある。

■父のように見えて

伏原 大体、ニュースは年をとることをネガティブに伝えることが多く、超高齢化社会、老老介護、貧困老人、孤独死などの言葉が飛び交う。僕はもっとゆるりとしていて、それでいて胸にひっかかる物語が作りたかった。僕は4年前に父を亡くしており、酒が飲めないこともあって父と一杯やりながら人生について語り合ったことがなかった。修一さんが父親と重なり、取材を諦められなかった。

－夫妻の生活は静かでんのんびりして、平和である。

阿武野 特に何が起こる訳でもない。ただ僕はこの映画は「風が吹けばおけ屋がもうかる」ではないが、「風が吹けば、枯れ葉が落ちる。枯れ葉が落ちれば、土が肥える。土が肥えれば、果実が実る...」というイメージがした。津端さん夫婦は「こつこつ、ゆっくり」「ときをためて生きている」と。そこから「人生フルーツ」というタイトルが浮かんだ。

伏原 2年間で40分テープを400本ほど回した。修一さんは結構バリアーがあってカメラから逃げるところがあったが、英子さんはいつも笑顔で協力してくださった。雑木林のある家で全体がグリーンのイメージがあるので、「人生フルーツ」というタイトルは最初違うなと思って、僕なりに「雑木林のふたり」など100以上の仮タイトルを考えたが、それを超えるものがなかった。それで英子さんが畑で作ったイチゴ、さくらんぼ、甘夏、桃、スイカ、柿などの映像を編集で足した。

－修一さんが亡くなる場面に驚かされる。

伏原 15年6月2日に娘さんから電話があって知った。駆け付けると、修一さんはいつものように、まるで昼寝をしているようだった。眠っている修一さんの顔はきれいだと思った。

■日常が哲学

阿武野 映画は何一つイベントを映し出していない。あるのは夫婦のたおやかな日常だけだ。だからこそ2人の哲学がさりげなく醸し出されているのではないかと思う。16年4月に、春日井市の津端家を訪ね英子さんに会った。映画でナレーションをしてくれた樹

木希林さんと英子さんの「居酒屋ばあば」という番組を作ろうと思った。

ふしはら・けんし 1969年生まれ。立教大卒業後東海テレビ入社。営業を経て製作局でニュースを担当。報道部で県警キャップや編集長を歴任。「とうちゃんはエジソン」などドキュメント多数。映画は「神宮希林 わたしの神様」（2014年）に次いで今作へ。

あぶの・かつひこ 1959年生まれ。同志社大卒業後東海テレビ入社。アナウンサーを経てドキュメンタリー製作へ。多数の作品を手がけ、同局の映画第1作「平成ジレンマ」（2010年）を発表し地方TV局製作の先鞭（せんべん）をつけた。ほかに「ヤクザと憲法」など。

大学倶楽部・関西学院大 ボランティア養成講座 障害者サポート、90人が参加

毎日新聞 2017年1月16日

車椅子を押す練習をする参加者ら

障害者スポーツをサポートするとともに、暮らしやすい社会づくりを目指すボランティア養成講座が1月14日、関西学院大学であった。清水建設（東京都）との連携講座で約90人が参加し、視覚障害者の案内や車椅子利用者の手伝い方などを学んだ。

東京パラリンピックを控え、国内でも多くの障害者スポーツ大会が開かれていることなどから

企画。関学の学生や関西で勤務する清水建設の社員らが参加した。アイマスクをつけた相手に「背もたれ付きの椅子です」と声を掛けながら席まで誘導したり、車椅子を押す際に前輪を浮かせて段差を越えたりする練習をした。

講師を務めた北京パラリンピック・視覚障害者柔道日本代表の初瀬勇輔さんは「困っている人がいたら、声を掛ける自信を持ってほしい」と話し、車椅子利用者でバンクーバーパラリンピック・アイススレッジホッケー日本代表の上原大祐さんは「どういうサポートが必要か、その人に合った方法を聞いてみて」と呼び掛けた。

聖和短期大学1年、原彩帆さん（19）は「視覚障害者に説明するときには言葉だけでなく、椅子や壁の位置など実際に手で触れられるように誘導することも大事だと分かった」と話した。【田辺佑介】

学童保育の利用者・待機児童 ともに過去最多に NHK ニュース 2017年1月16日

親が仕事などをしている間に、放課後の小学生を預かる学童保育の利用者が109万人に達したほか、空きを待っている待機児童も1万7000人余りと、ともに過去最多となったことが、厚生労働省のまとめでわかりました。

厚生労働省によりますと、去年5月1日の時点で学童保育を利用した児童は、前の年より6万8450人増えて109万3085人でした。また、学童保育の施設は1000か所ほど増えましたが、利用者のニーズに追いつかず、待機児童も262人増えて1万7203人となりました。

利用者と待機児童は、おとし、利用できる対象が「3年生まで」から「全年齢」に拡大されて急増し、いずれも今回、過去最多となりました。一方、保育の必要性が高い「3年生まで」は、優先的に受け入れが行われ、前の年よりも743人減ったということです。

待機児童の数を都道府県別に見ると、東京都が3417人で最も多く、次いで埼玉県が1846人、千葉県が1380人、静岡県が1088人などとなっています。

厚生労働省は、平成31年3月までにおよそ12万人分の受け皿を新たに整備する方針で、「共働き世帯の増加を背景に、今後も利用者は増える」と見られ、共働きの親が安心して

働けるよう、待機児童ゼロを目指したい」としています。

転落事故受け 駅員の声かけ徹底指示へ 国交省 NHK ニュース 2017年1月16日

14日にJR京浜東北線の駅で、盲導犬を連れた男性がホームから転落し、電車と接触して死亡した事故を受け、国土交通省は、鉄道各社に対し、1人での視覚障害者を見かけた際は声をかけることを駅員に徹底するよう指示する方針です。

14日に埼玉県蕨市にあるJR京浜東北線の蕨駅で、上りのホームにいた盲導犬を連れた視覚障害者の男性が線路に転落し、電車と接触して死亡しました。

JR東日本によりますと、当時、改札にいた駅員は男性が自動改札を通過するのを確認しましたが、男性がふだんから駅を利用し、困った様子も見られなかったことなどから、声をかけなかったということです。

去年、視覚障害者が線路に転落し死亡する事故が相次いだことから、国と鉄道各社は先月、ホームからの転落防止について安全対策をまとめ、駅員は原則として、1人での視覚障害者を見つけた際には、声をかけることにしました。しかし、JR東日本では、この対策について駅員など現場に十分に周知していなかったということです。

このため、国土交通省は、全国のJRや私鉄など鉄道各社に対し、駅で1人での視覚障害者を見かけた際は、声をかけることを駅員に徹底するよう指示する方針です。

混合介護特区を豊島区検討 保険と対象外サービス併用 朝日新聞 2017年1月16日

介護保険とそれ以外のサービスを組み合わせる「混合介護」について、東京都豊島区は、地域限定で規制を緩和する国家戦略特区制度を活用して導入する方向で、都と協議を始めた。

介護保険制度では、自己負担が1割または2割の保険対象と全額自己負担の対象外サービスを同時に提供できない。介護職員が利用者と家族から対象外のサービスを頼まれた場合、費用を分けて請求する必要があると、使い勝手が悪いとの声があった。区は今後、介護事業者から聞き取りを始め、有識者会議を設置して利用しやすい方策などを検討する。

混合介護については、小池百合子都知事が昨年12月の都議会で国の特区制度の活用を意欲を示していた。区によると、都から導入検討の打診を受けて、協議に入ったという。

介護施設社長の女、カード使い80代女性の750万円窃盗疑い 福岡県警逮捕

産経新聞 2017年1月16日

福岡県警戸畑署は16日、自社のデイサービスを利用していた高齢女性のキャッシュカードを使い、750万円を盗んだとして窃盗の疑いで、北九州市戸畑区、通所介護施設「有限会社らいぶ」社長、高木友香理容疑者（56）を逮捕した。

逮捕容疑は昨年6月8日から30日にかけて、介護を受ける北九州市内の80代女性のキャッシュカードを使い、戸畑区内の銀行ATMから計750万円を引き出した疑い。

同署によると、口座から金が減っていることに気付いた女性が昨年8月に署に相談。ATMの防犯カメラの映像から、女性宅に出入りしている高木容疑者が浮上した。女性は、知人でもある高木容疑者に頼み、キャッシュカードで生活費を引き出してもらったことがあるという。昨年6月以前にも身に覚えのない預金の引き出しがあり、同署が今回の事件との関連を調べている。

「チャレンジテスト」大量欠席、別の2中学でも…理由は多くは「体調不良」 大阪府南部 産経新聞 2017年1月16日

大阪府内の公立中1、2年を対象に12日に実施された府独自の学力テスト「チャレンジテスト」(統一テスト)で、府南部の中学校で多くの生徒が欠席していた問題で、府南部の別の2つの中学校でも大量の欠席者がいたことが16日、分かった。

府教育庁などによると、一つの中学校では1、2年の計250人のうち115人が欠席。もう一つの中学校では2年生180人のうち92人が欠席したという。

92人欠席の中学校では、理由の多くが「体調不良」だった。昨年12月に教員が一部の生徒と保護者に面談でテストについて説明した際「点数が悪いと(内申書の)成績は下がる」「体調不良であれば欠席は仕方がない」と発言したという。

チャレンジテストは府内の公立中1～3年生の全員が受験し、高校入試向けの内申書に反映される。テストを受けない場合は内申書の対象外になる。

主張：次期指導要領 土台となるのは国語力だ 産経新聞 2017年1月16日
学習指導要領の改定作業が進められている。中央教育審議会の答申を受け、考える力や表現力を重視するという。

その土台となる国語力強化を忘れず、指導を進めてもらいたい。

次期学習指導要領は、小中学校について今年度中、高校は平成29年度中に文部科学省が告示する。教科書が一新される全面実施は、3年後の東京五輪・パラリンピックの年以降だが、学校の判断で先行実施することも可能だ。

気がかりなのは、早ければ30年度から小学校の5、6年生で英語が教科化されることだ。

現行では「聞く・話す」を中心に英語に親しむ「外国語活動」が週1コマ導入されている。それを3、4年生に早め、5、6年生では週2コマとなる。その指導に気を取られ、肝心の国語の授業がおろそかにされては困る。

英語ができるにこしたことはない。国際化の中で保護者などから英語習得への要望は強まっている。しかし、小学校から学べば上手に話せると考えるのは安易ではないか。教える先生の英語の実力はどうか、逆に英語嫌いを増やしかねない、など専門家の中でも反対論は根強い。

中学で学ぶ英文法が身につけていけば、日常会話に十分応用できるとの指摘もある。小学校から努力しても、中学以降の教育がだめなら無駄になりかねない。

国際化というなら、何を話すかの中身が重要だ。話したいことや学ぶ目的が明確でないのに、英語で何を伝えるのか

国語力は思考や表現と切っても切り離せない。すべての学力を支える。子供たちの語彙力低下が心配される中で、国語の授業こそ充実させるべきである。

次期指導要領は先の10年を見通し、人工知能(AI)の飛躍的進化の中、AIに代替できない力を育むことを念頭に置く。その点でも、国語力を含む基本的なものの考え方を身につけることは、コンピューターを使いこなす上で欠かせないだろう。

一方的に講義するやり方を見直し、討議や課題探究など能動的に学ぶ「アクティブ・ラーニング」という授業スタイルが求められている。果たして受け身の授業で育った先生たちが変わるか。

教える教師の態勢が整わず、理念先行で失敗した「ゆとり教育」の二の舞いとなる懸念はある。

